



ふじ もと とも こ  
藤本智子

にほんきょうさんとうつしぎだん  
日本共産党津市議団

## 遅れている下水道の整備促進を

**問** 当初計画から15年も遅れ、志登茂川流域下水道が平成30年から使用開始される見込みとなった。認可区域となっている地域は、今年確定する生活排水処理施設整備計画に基づき、全て接続できるよう整備を進めるとともに、市内34団地の集中浄化槽の市への移管と下水道の計画から外した地域に対しての市町村設置型合併浄化槽対応は具体的プログラムを示し早期実施を。

**答** 全体計画を見直すとともに、事業認可区域の事業促進を図るよう平成25年度から始まる新たな公共下水道5カ年計画を策定し、整備を進めていく。また、志登茂川処理区においては志登茂川浄化センターは平成29年度末供用開始を目標とすることが三重県から示されており、可能な限り、より広い地域で供用できるように整備を進める。

団地の集中浄化槽の市への移管については、本年7月に三重県が公表する生活排水処理アクションプログラムを受け、各団地の状況把握と施設の実態調査等を行い、今後の整備の具体的な方向を今年度中に取りまとめていきたい。市町村設置型浄化槽についても、計画区域から外れた地区全体の実態調査を早急に今年度から実施していく。

## ●その他の質疑・質問●

- 子どもの安全で健やかな活動場所の確保を
  - ・学童保育としての要件10名に満たない場合は、放課後子ども教室での対応を
- 子ども子育て新システムについて
  - ・幼稚園での対応及び責任を持った市での対応を
- 職員の再任用にあたって民間事業所へのあっせん基準 など



▲平成30年使用開始に向け、工事が進む浄化センター



わだ かしお  
和田甲子雄

にほんきょうさんとうつしぎだん  
日本共産党津市議団

## 災害に強いまちづくりを

**問** 内閣府の想定による地震・津波対策の見直し、原発事故対策を含めた防災対策を求める。

阪神・淡路大震災では亡くなった方の8割が家屋の倒壊、家具の転倒が原因、住宅の耐震補強の推進、家具転倒防止の補助見直しを。高台や避難可能な建物のない河芸・白塚・雲出・香良洲地域などに日常的に使用できて津波の避難場所にもなる「避難タワー」の建設を。

**答** 今後2年間で津波避難計画の作成支援や地域防災計画の徹底見直しを行うなど、現段階でできる防災対策の強化を積極的に推進していく。原発事故対策については、独自に空間の放射線測量を行うなど、迅速な初動態勢が取れるよう努めており、今後も国、県、関係機関と連携を図り対応していく。住宅の耐震化や家具転倒防止については、住宅訪問や学習会の場を通して制度の啓発に努めていきたい。補助については、耐震化促進計画の点検状況により検討する。また、避難タワーについては、地域が避難計画を作成していく中で災害時要援護者の実態や避難体制の確保など課題を見極めて、必要ということであればその地域にとってどのような施設が望ましいのか検討していく。

## ●その他の質疑・質問●

- 震災がれき処理は住民参加で納得と合意が大前提、反対がある場合は受け入れるな
- 一身田寺内町の本山西側環濠の景観保全、環濠に水の流れを、電柱の撤去、地中化で景観の保全、交通安全、活性化を
- 久居駅東側周辺地区整備事業の中止、保健センターは久居総合支所に、市民ホールは現在地で公民館とともに整備を など



▲高台のない地域に避難タワーを（河芸地域の海岸堤防）